

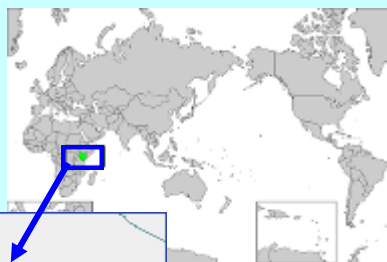
支援対象国

## ケニア共和国



日本の国土の1.5倍の面積を有するケニア。事業地であるガルバチュウラ県を含む国土の8割が乾燥・半乾燥地であり、たびたび干ばつに襲われる厳しい自然環境のもとで多くの遊牧民が暮らしています。子どもたちの多くは保健サービスをうけられず、命の危険にさらされています。

ガルバチュウラ県の乳児死亡率は同国の中でも高く、出生1000人あたり75人（国全体では52人）、妊産婦死亡率は出生10万人あたり990人（国全体では488人）です。これらの数値は、同地域において保健サービスの支援が必要であることを物語っています。



ケニア共和国  
ガルバチュウラ県

これまでのご支援、誠にありがとうございます。  
赤十字の活動は皆さまからのご寄付に支えられています。

### さらなるサポーターも募集しています！

#### 海外たすけあいキャンペーン

世界の紛争や自然災害、飢餓、病気などで苦しんでいる人びとを支援するため、日赤とNHKは1983年から毎年「NHK海外たすけあい」募金キャンペーンを実施しています。

2016 海外たすけあいキャンペーン  
毎年12月1日～12月25日

#### 海外救援金

大規模な紛争や災害により甚大な被害が発生したとき、犠牲者・被災者支援のため、救援金を募集しています。

海外たすけあいキャンペーン報告書、海外救援金募集状況はこちら



#### 企業の方へ

ご希望の事業をご支援いただくことが可能です。  
詳細は下記の連絡先までお問合せ下さい。

### もっと知りたい方は・・・

#### 赤十字国際ニュースにご登録ください

大きな紛争や災害から、スポットライトの当たっていない人道危機まで、様々な対応を行う赤十字の活動を発信中！

【定期購読】  
まぐまぐ登録画面よりメールアドレスをご登録ください。  
毎週金曜日に赤十字国際ニュースをお届けします。



まぐまぐ登録画面URL  
<http://goo.gl/UrRLTU>

## ケニア 地域保健強化事業 (IHOP/愛ホップ)



日赤 ケニア 地域保健強化事業

検索



人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3  
日本赤十字社 <http://www.jrc.or.jp>  
TEL:03-3437-7089（国際部 開発協力課）2016年12月作成

## 地域保健強化って、

### どんなことをするの？

ケニアでは、多くの住民が健康に関する十分な知識を持っていないため、また保健サービスが整っていないために、妊産婦や子どもたちが下痢症や肺炎など予防可能な病気でいのちを落とすこともあります。

#### その1 住民が主役！

現地職員や地域ボランティアが中心となって…



#### その2 健康について理解を深めよう！

ボランティアが村々を回って、木陰で健康講座を開いたり、小中学校に赤十字クラブを創設して、青少年を対象に啓発したり…



#### その3 医療サービスを受ける機会を作る！

手術室を建設したり、医師らが村々を巡回して診療したり…



#### その4 ケニア赤十字社の組織力を強化！

活動を支える赤十字ボランティアと職員の能力を強化するために、必要な研修や環境整備を行っています。

## 事業概要

- 事業名（日本語）：ケニア地域保健強化事業  
（英語）：Integrated Health Outreach Project  
（通称）：IHOP / 愛ホップ
- 事業地：イシオロ州ガルバチュウラ県  
ガルバチュウラ地区とセリチョー地区
- フェーズ1：2007年11月～2012年12月 ※終了
- フェーズ2：2013年1月～2017年12月 ※実施中

## ケニア赤十字社職員メッセージ

こんにちは。プログラムオフィサーのシアード・グヨです。私は愛ホップ事業地のイレサボル出身です。



憧れ

災害がある  
と真っ先に駆けつけ、脆弱な住民に寄り添う赤十字

の存在は、私にとって子どものころからの憧れでした。県立病院の検査技師として愛ホップの巡回診療に参加していたとき、いつか赤十字のベストを着て愛ホップの指揮をとってみたいと、みんなに言っていて、ついに今年5月に現職に就きました。

やいがい

愛ホップが始まってから人々の健康に対する考え方や行動が明らかに変わってきました。巡回診療や緊急搬送などを通じて、愛ホップが救ってきた命の数は計り知れません。これからも愛ホップを通じて、自分の故郷に恩返しをしたいです。



## 産休サンキュープロジェクト

出産を機に、生まれてくる“いのち”に、そして支えてくれる周りの人たちに感謝し、日本で産休・育休を推進し、寄付によって開発途上国の子どもたちとお母さんを支援し、一緒に子どもたちを育てていくプロジェクトです。

例えば、ケニアでは…  
こんなことができます！

産休 3,900円 救急車の使用1回分

サンキュー 39,000円 帝王切開に必要な手術セットの購入

Thank you

390,000円 健康教育に関するラジオ放送を週1回  
1時間を半年間放送

企業・団体単位で、社員や顧客の皆様から本プロジェクトのための寄付を集めています。

お問い合わせ先：日本赤十字社 国際部  
開発協力課 産休サンキュープロジェクト担当  
TEL 03-3437-7089

世界では5秒に1人の子ども、2分に1人の妊産婦がいのちを落としている現状があります。生まれた場所が異なることで、誕生する我が子と同じ年の子どもたちが、日々のいのちを失っている現状に、どうぞ目を向けてください。

